

お別れ授業

～ ヨーロッパ人に
学ぶ授業～



スペイン・バルセロナにあるピカソの壁画

バルセロナを去るにあたり、生徒たちにぜひ伝えたいことを
「ヨーロッパ人に学ぶシリーズ①～③」で行った。

『ゴッホの悲劇・・・君は敗者じゃない。自分で自分を見捨てるな!』

ゴッホの作品を鑑賞しながら、ゴッホの人生について学ぶ。その中で、ゴッホについて興味を持つとともに、「自分で自分を見捨ててはいけないのだ！」ということを感じる。

		発問・指示	教師の支援
導入	3分	1 ここはどこ？ オランダといえば有名な画家は？ この人ですよ。 ゴッホの作品知ってる？	・木靴の写真 ・ゴッホ美術館の写真
展開	3分 15分 3分 5分 10分	2 はい、これがゴッホの有名な作品です。 ①馬鈴薯を食べる人々（1885作） ②亀戸梅屋舗（広重写し）（1887作） ③アルルのはね橋（1888作） ④向日葵（1888作） ⑤包帯をしてパイプをくわえた自画像 （1888年12月） この5つ、描かれた年代順に並べています。 ⑤の作品まで、ゴッホはどんな人生を送ったのか絵を見て予想してみましょう。 絵を用いて発表してください。 3 実は、こうなのです。読みましょう。 ・・・それでは、この「自分の耳をそぎ落としてしまう」の後、ゴッホはどんな人生を送るのでしょうか？ 4 この写真を見てください。制作を再開しますが、入退院を繰り返し、最後は自殺するんですね。 それでは、自殺直前に描かれた絵を次の中から選んでください。 ○星月夜 ○夜のカフェ・テラス ○カラスの群れ飛ぶ麦畑 5 「カラスの群れ飛ぶ麦畑」なんです。この絵を描き、「ぼくは敗者だ。この運命を自分で変えようとは思わない」と言って、自殺するんです。	・生徒用プリントを準備 ・黒板には、大きな絵を掲示 ・[ゴッホの絵本]より「ゴッホの生涯」を抜粋 ・アルルの病院の写真 ・「カラスの群れ飛ぶ麦畑」の解説とあわせて、ゴッホの言葉を紹介する。
終末	5分	6 次の新聞資料を見てください。 ・・・ゴッホは、「自分は敗者だ」と言って自殺しましたが、果たして、ゴッホは敗者だったのでしょうか？ ゴッホの悲劇は、我々に何を教えてくれるのでしょうか？	・2003年朝日新聞 「ゴッホだから。落札額 6600万円」



授業後、自ら画集に取り出し、ゴッホの全作品も見つめる。
中学部2年「ゴッホ」授業



中学部1年「ゴッホ」授業

授業後、休み時間、画集に集う子ら

『 ゴッホの悲劇・・・君は敗者じゃない。自分で自分を見捨てるな! 』

- ゴッホのすごさは、たくさんチャレンジすること。
人生は何歳から始まるか分からないことを教えてくれた。
もしかしたら僕が30歳になるとき、野球選手になってるかもって感じの生き方は尊敬する。
やっぱり、あきらめちゃいけないということも教えてくれた。(ゴッホはあきらめたけど・・・)
今まで教わった人物ほとんどに共通することが、「あきらめなかった」ということ。
スゴイ奴ってというのは、すごいつらい壁にぶちあたっていたし、それを乗り越えた後、人間的にその力も器もデカくなっていたと、このごろ思ってきた。(高野)
- ゴッホは若い頃は、職業もうまくいかず、伝道師にもなれず、病院に通うようになってからは、人から冷たい目で見られたりして、こんなひどい目にあうなんて、とてもかわいそうだと思います。
ゴッホは、死ぬ間際に「私は敗者だ」と言いましたが、それはちがうと思います。
昔は画家として認められなかったけど、今では有名な画家となり、その絵は世界中の人たちから認められているからです。
ぼくは、このことを知って、人は、「自分はもうだめだ」なんて思ったり、過去のことがばかり考えていてはダメなんだということを改めて感じました。(栗村)
- ゴッホの人生は、ほとんどいいことがなかったけど(まともに仕事につけなかったり、絵も売れなかったり)その絵が、ゴッホの死んだ150年後の今、6600万円で売れてるなんて、とても驚いた。
・・・ゴッホが自殺する前に描いた絵は、かなり意味が深いと思った。
その絵には、行き止まりの道、闇に飛び立つカラス、いつもの絵とは違う、暗く、重々しい感じの夜空があり、その時のゴッホの気持ちがよくわかる絵だった。
ゴッホの気持ちは、「もう自分は生きられない。生きていたところで、どうせつらいだけだ」というふうにあきらめていたように思った。
だが僕は、幸福は絶対不幸の後に来ると信じているから、あきらめたらいけないと思った。
(渡辺)
- 彼が最後に描いた絵は、本当に「こわい」し「悲しい」。
道がピタッと止まっている。空も絶望の色。鳥も黒い鳥。欲求不満の黄色の麦畑。荒れ狂う麦畑。形容できない絶望的な絵。
ゴッホの授業は、本当に良かったけど、後味が少し悪い。
敗者って、本当の敗者っていないと思う。
本当に悪いことした人だけだと思う。(田中)

『ウィーダ作「フランダースの犬」・・・死ぬな。生きることを考えよ! 』

1. 本時の目標

「フランダースの犬」の最終部分を、「自分ならどうするか?」を考えあうことにより、「生きぬく意志」を持つ。

2. 展開

		発 問 ・ 指 示	教師の支援
導 入	3分	1 ここはどこ? ワッフルといえは? ベルギー・アントワープといえは、有名な本は? ヒント。これ、ネロとパトラッシュ。 そう、フランダースの犬。読んだことある人?	・ベルギーワッフルとルーベンスの銅像の写真 ・アントワープ大聖堂内のネロらと写真 ・読んだことのある人に、話の内容を言わないよう、お願いする。
展 開	3分	2 それでは、先生が読んであげます。	・ネロの置かれている状況がわかるように、時折解説を入れる。 ・アニメ映画「フランダースの犬」を編集しておく。
	15分	幼児用絵本「フランダースの犬（世界文化社）」P25まで （コゼツさんの財布を届け、パトラッシュの世話を頼んで、走って出るところまで）	
	15分	3 初めて読んだ人に聞きます。 この後、ネロはどうするんでしょう?	
	3分	4 ビデオで見てみましょう。	
展 開	10分	5 あこがれのルーベンスの絵を見て、「僕はもう満足です」と言って、パトラッシュと抱き合い、飢えと寒さのなかで死んでいくんですね。 ・・・、この時代、貧しさ故、豊かな才能を開花させることなく、悲しみのなかで亡くなっていたということが事実としてたくさんあるんでしょうけど、...、うーん、それにしても悲しすぎる。生きてほしかった。 なんとか生きる方法はなかったんだろうか? みんななら、財布を拾った後、どうする?	
終 末	3分	6 今日は、「フランダースの犬」を通して、「生きぬく」ことを考えました。 21世紀は、不確定の時代。何が起こるか分からない。 しかし、何が起ころうとみなさんは、「生きぬく」ことを考えること。自分一人で見いだせない場合は、こうやって友の考えを聞くこと。 そうすれば、必ず道は拓けます。 是非、覚えて おいてください。	



授業後、絵本を一度開く生徒

『ウィーダ作「フランダースの犬」・・・死ぬな。生きることを考えよ! 』

- 今日の授業で、ネロは少しゴッホと似ている所があると思った。
ネロは貧乏というだけで、みんなに嫌われていやな目にあった。
だが、ネロには絵の才能があったので、コンクールでお金を稼げるという希望があった。
だが、それもダメになってしまった。
僕は、アロワの父親が、ネロとパトラッシュが拾ってきた金袋の中身を礼としてあげれば、ネロも死なずにすんだのかもしれないと思った。
ネロの方も、金袋を拾って渡したときに、すぐに去るのではなく、コイン2・3枚とおけば生き延びることができたのに・・・。
ネロは純粋すぎて、それで死ぬなんて、とてももったいないと思った。
たまには、正しいことも見捨て、生き延びなくてはダメだと思った。(渡辺)

- ネロは、食べ物をもらわず、パトラッシュをおいて、家の外に行きました。
そして、パトラッシュも家を出て、ネロを追いかけて、教会に行つて死んでしまいました。
もし僕がネロだったら、見つけたお金から何枚かコインをもらったり、おじさんにおこづかいをくれるように頼みます。
でないと死んでしまうからです。
ネロはよい子すぎると思いました。
だって、この世で一番大切なのは命だから。(林)

- フランダースの犬という話は、とても悲しい話だということは知っていたけれど、実際に話にあったようなことがあったことを初めて知りました。
ネロは貧しいからって差別していましたが、自分がそんなことをされたら、とても我慢できなかったと思います。
ネロは、強くて優しい人だと思いました。
でも、死んでしまうまで我慢しなくてもいいと思いました。
貧しい人とか関係なしで、自分の言いたいことをネロも言っていたら、きっと幸せになったと思います。
昔あった話を現在の人に何か伝えているような話でした。(千)

- 今日の授業で、昔は、あんな貧乏な人たちが、飢え死になどで死んでいったんだろうなと思いました。
ネロは、飢え死にせず、助かるチャンスがたくさんあったのに、正直すぎて死ぬ運命になってしまいました。
僕だったら、あのヨゼフさんの落ちていた財布を全部盗んだらと思うました。
もし、それができなかったら、財布を女の子の家に届けたら、そのままその家にいると思いました。
こんな悲しい話がないような世の中になればいいなと思いました。(三栗野)

『ベートーベン・・・人は“苦悩”を突き抜けて“歓喜”を勝ち得る』

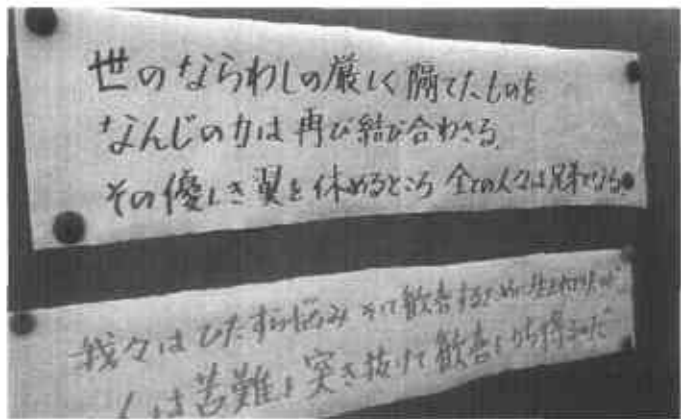
1. 本時の目標

ベートーベンが第九交響曲をどのような状況のなかで作ったのかを知るなかで、「人は苦悩を突き抜けて歓喜を勝ち得る」という真実を学ぶ。

2. 展開

		発問・指示	教師の支援
導入	8分	1 「遺書」って何？ 世界で最も有名な「遺書」って誰のか知ってる？ はい、これです。読んでみましょう。	・ひのまどか著「ベートーベンP35」より。
展開	5分	2 ...、誰のでした？ ベートーベン、何に苦しんで死のうとしていましたか？3つ以上。	
	2分	3 ベートーベンを自殺からひきとどめたのは何でした？2つ。	
	5分	4 自殺をひきとどめてくれた彼女とは、この後どうなると思います？うまくいく、いかない？ ・・・どうして、その恋は破れたと思いますか？	・途中で、「1800年頃という時代から理由を考えなさい」と言う。
	3分	5 恋に破れた後、[民衆の自由を認めた平等な社会]をベートーベンは心から望みます。[平等な社会]が実現するよう、彼は何に期待すると思いますか？	・「1800年頃、フランスから、誰が出てくる？」と言う。
	7分	6 期待したナポレオンに裏切られ、ウィーン会議にも裏切られる。〈個人的な絶望〉と〈時代の絶望〉の中で、ベートーベンは、どうするのでしょうか？ ・・・はい、これです。(第九をかける) 何という曲ですか？ (カードをはった後)自由を奪われた人間の尊厳と連帯を、シラーの「歓喜に寄す」の詩を用いて表現するのです。「世のならわしの・・・」交響曲に歌を入れるという型破りなもので。身分や貧富の差を乗り越え、全ての人々は連帯できると。	・テープ「第九」 ・黙って、『世のならわしの厳しくわけ隔てたものをなんじの力は再び結び合わさる。その優しき翼を休めるところすべての人々は兄弟となる』のカードをはる。
終末	10分	7 ビデオを見ましょう。 ・・・ベートーベンは、〈個人的な絶望〉と〈時代の絶望〉を乗り越えて、第九交響曲を作り、人々に希望を与えます。そして、それは、今なお、人類の解放と連帯の歌として、世界中で歌い継がれているのです。 『我々はひたすら悩み、そして歓喜するために生まれてきたのだ。人は苦悩を突き抜けて歓喜を勝ち得るのだ』 ベートーベンの言葉。自らの経験に基づいた絶対的真実。 人は苦悩をつきぬけて、歓喜を勝ちうるのです。	・「その時歴史が動いた“ナポレオン”」より編集。 4分30秒。 ・時間があれば、もう一度ビデオを見せる。

遺書と読心生紙



『 ベートーベン・・・人は“苦悩”を突き抜けて“歓喜”を勝ち得る 』

- ベートーベンが兄弟にさえ、勘違いされているのは知りませんでした。
家族にわかってもらえないのは、本当に辛いことだと思います。
しかも、完全に耳も聞こえなくなってしまうと、いろんな苦しみを味わってきました。
耳が聞こえないから、耳以外で感じるものから、あんなすばらしい歌「歓喜の歌」が作れたんだと思います。
苦しみを知らない貴族より、苦しみを知り、そこから喜びを感じる人の方が、かっこよくてすばらしい人間だと思います。
「歓喜の歌」にベートーベンの心がつまっているのを知り、これから「歓喜の歌」を歌うときは、の言葉を思い出して歌いたいです。
たくさん苦しんで、たくさん喜びを感じたいです。
苦しまなくて、喜びも優しさも知ることにはできないから・・・。(森)
- 今まで知らなかったのでびっくりした。
偉大な人物になった人たちはみんな、悩み、そしてそれを乗り越える力のあった人だと思う。
ベートーベンも耳が聞こえないハンデを乗り越えて、人々に感動を与える曲を作ったので、すごいと思った。
今は昔にくらべて生きやすいけど、昔はとても不自由な暮らしをして大変だったということがわかった。
『我々はひたすら悩み、そして歓喜するために生まれてきたのだ。人は苦悩を突き抜けて歓喜を勝ち得るのだ』という言葉の意味を忘れないで生活していきたい。(石川)
- 僕は、ベートーベンが耳が聞こえなくなっていたのは知っていました。
しかし、そのことで悩んで、自殺までしようとしていたことは知りませんでした。
普通の人ならそのまま死んでいたかもしれません。
でも芸術がそれを引き止めて、「歓喜の歌」というすばらしい歌が作られたのだと思います。
歌詞も日本語では簡単になっているけど、ドイツ語ではすごく意味が深いものだということがわかりました。
「歓喜の歌」は、すべての人々を幸せにする歌だと思います。(駒田)